

リレー随筆

佐賀県の魅力

| 鹿児島市立病院 消化器内科 | 伊集院 翔

私は鹿児島出身だが、20年程前に人生の8年間を佐賀県で過ごした（大学6年間と研修医2年間）。私にとってのアナザースカイである、佐賀県の魅力について述べていきたいと思う。

＜佐賀大学時代の思い出＞

県外の大学に行ってみたいという思いから、高校3年生の時に佐賀医科大学（現在の佐賀大学医学部）のオープンキャンパスに行ったことが佐賀に行くきっかけとなった。当時のお笑い芸人が佐賀県のことを歌った歌が流行り、佐賀医科大学の合格が決まった後、カラオケで熱唱したのを覚えている。

佐賀医科大学医学部に入学し、佐賀上陸後の第一印象は「田んぼだらけ」であった。医学部キャンパスは佐賀市鍋島という住所にあり、特に田んぼが多い地域であった。車の免許を持っていなかった入学したての頃は、飲み会の会場まで近道をする目的で、田んぼの畦道を自転車で爆走していたものだった。同学年で同大学に入学した私の双子の弟が、自転車爆走中に田んぼに落ちてしまったが、自転車の前輪・後輪が垂直に田んぼに突き刺さったことで、転倒せず体が全く汚れなかったことをよく自慢話として語っていた。また、「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」というイベントがあり、世界的な熱気球の競技大会が行われるのだが、その時期になると自宅近くの田

んぼに不時着した熱気球を目にすることがあった。

清水の滝という佐賀市から車で20分程度のところにある滝には、毎年5月頃に蛍がたくさん飛び交う場所があり、大学生の夜の観光スポットとして有名であった。視界全体にたくさんの光が飛び交う蛍の姿は本当に感動的な光景であった。暗闇で懐中電灯を持ちながら、部活の男女で歩くイベントはカップル成立イベントとしても多く貢献があったと思われる。残念ながら私はその恩恵は受けることができなかったが…。

＜佐賀の食の魅力＞

佐賀は魅力的な食べものが多い。

私の推しは、①呼子のイカ ②佐賀海苔 ③佐賀ラーメンである。

呼子は佐賀市から車で2時間という県内移動としては最大級の移動が必要な場所であるが、呼子で食べるイカはそれだけの価値がある。活造りで頼むのが一般的だが、ついさっきまで店内の生簀で泳いでいたイカを捌いたお刺身が大きなお皿に乗ってやってくる。刺身のイカは真っ白なイメージだが、捌かれたばかりのイカは透明でまだ反るように動いているものもある。醤油につけて口に入れると心地よい歯応えとともに美味しさが口に広がる。一度食べると忘れられない味だ。さらに残ったイカの耳（三角のところ）は途中で店員がやってきて回収し、その場で塩焼きあるいは唐揚げ

にしてもらえる。私はこの唐揚げが大好きである。稀に鹿児島のレストランでも呼子のイカをメニューに目にすることはあるが、やはり現地で食べるライブ感と味はこの場でしか堪能できない。



皿の上で泳ぐ呼子のイカ

次に佐賀海苔について。佐賀県沖の有明海は養殖のりの一大産地で、佐賀県は長年、海苔の生産量、販売額の日本一となっている。海苔網から、最初に摘み取られた海苔のことを「一番摘み」といい（お茶でいう「一番茶」のようなもの）、プレミアムな位置付けになっている。研修医の時に、研修医室で誰かが差し入れた「一番摘み」の味海苔があっという間になくなったのを覚えている。大判の海苔をみんなでバリバリと食べていた。研修医の激務で疲れた体に海苔の塩分とバリバリ食感は最高であった。

そして佐賀ラーメン。基本の味は豚骨ラーメンだが、鹿児島ラーメンや博多ラーメンとは一味違う。割としっかりとした豚骨で泡立ちも認めるが、スープを飲むと甘く、それでいてさっぱりとした味わいである。麺は中太のストレート麺が主流、一部のお店では生卵（これがとてもラーメンと合う！）や佐賀海苔が乗ってくるところもある。替え玉はできないのでお腹いっぱいになりたい時はラーメン大盛りにするか、ご飯を頼むのだが、ご飯とスープの相性も

最高である。皆さんも学会で行かれた際は是非食べていただきたい。また隣県が福岡県であることもあり、博多ラーメンや久留米ラーメンのお店もたくさんあり、大学当時鹿児島で経験したことのなかった替え玉は実に新鮮であった。

もう一つ追加の推しとして、牡蠣、カニがある。佐賀県太良町は有明海沿いの町であるが、竹崎カキ、竹崎カニという名前で見られている。海岸沿いの道には多くの牡蠣小屋があり、バーベキュー形式で大振りの牡蠣を食べることができる。今では鹿児島にも、牡蠣小屋を模倣したお店を見ることがあるが、牡蠣小屋発祥の地は太良町とのこと。竹崎カニは小ぶりのカニで、ズワイガニやタラバガニと比べて貧相なその見た目から、距離を置いていたのだが、太良出身の看護師さんに絶対食べた方がいいと勧められ、太良町のお店で食した。しっかりと濃いうま味の味で激ウマであった。しかも脱皮の時期は殻が薄くなっており、殻ごと唐揚げにできるとのことなので、お店の人に無理を言って冷凍保存分を調理頂いたのだがこれもまた絶品であった。



佐賀で食した牡蠣
(発泡スチロール一杯の牡蠣はなんとも贅沢な光景！)

＜佐賀は温泉も魅力＞

温泉も魅力的だ。武雄温泉，嬉野温泉，古湯温泉など全国的にも有名な温泉地がある。古湯温泉はぬるぬると滑らかな泉質と，泉温が38度とぬるめであることから，「ぬる湯」と呼ばれ，ゆっくり長くつかっている温泉だ。佐賀市からも近く，車で気軽に通える。嬉野温泉は食の魅力もあり，温泉水で茹でる湯豆腐はとろとろで，非常にまろやかな味である。

また温泉名は控えるが吉野ヶ里町にある温泉が個人的に大好きで，山の上に位置する露天風呂からの大自然の眺めは最高であり，大学時代に月に1-2回は通っていた。

＜佐賀のおすすめ観光スポット＞

観光スポットも豊富である。佐賀に行って最初に衝撃だったのが「巨石パーク」。ただひたすらでかい石が点在する山を登っていくというシンプルなアウトドア施設だが，10m以上ある巨石達との出会いが新鮮であった。吉野ヶ里遺跡は有名と思うが，弥生時代をリアルに体感できる施設は全国的にも少ないと思われる。私が佐賀にいた頃は，施設の入り口に弥生人体験用の服が置いてあり，それを着て歩くと，なぜか施設職員に「お疲れ様です」と挨拶されるという不思議な現象が起こっていた（あまりにその服を着る観光客が少ないので，同様の服を着ていた職員から同僚と間違えられたと推察，あるいは同じ弥生人役の設定での挨拶だったのか）ため，部活の後輩には遺跡の新しい楽しみ方として推奨していた。そして先述したが，年に1回開催されるバルーンフェスタ。競技の際は佐賀市の空が気球でいっぱいとなる。大学キャンパスから空を見上げて初めて気づいた日は度

肝を抜かれた。また夜間係留といって，競技が終了した最終日の夜に参加したチームの気球が一箇所に集まり，順々に気球を点灯するというイベントがあり，とても温かみのある美しい光景が見られる。

＜結 び＞

佐賀県はどうしても九州の中では存在感が薄く思われがちで，「福岡の植民地」，「長崎までの通過点」など辛辣な通称もあるのだが（お読みの方で佐賀出身の方がいらっしゃったらご容赦ください），これまで述べてきたごとく，大変魅力が多い地である。九州で旅行をする際はぜひ佐賀を選んでいただき，前述の食べ物や施設，イベントを楽しんでいただければと思う。学会の際は呼子のイカ（佐賀市でも食べられる店あり），佐賀海苔，佐賀ラーメンの3点セットはぜひおさえていただきたい。

次号は，杏林会 丸田病院 消化器内科／藤田 俊浩先生のご執筆です。
（編集委員会）